まちの話題

まえさわ

地域住民のパワーは無限大

大曲水辺広場で小学生が花植え

無限大の記号をかたどった花壇と参加者した人たち

前沢区の住民活動のシンボルとして知られる、大曲水辺広場の花植えは６月３日、地区住民と白山小学校４年生以下の児童らが参加して行われました。

この花植えは、大曲の水辺に夢をつくろう会（岩渕博会長）が毎年続けているもので、水辺広場の中心には∞（無限大）をかたどった花壇が位置します。河川敷にあるため、昨年９月の大雨による北上川の増水で甚大な被害を受けましたが、会員らの修復作業によりほぼ復旧しました。用意されたサルビア、ベコニアなど1500株は、参加した児童らによって花壇に丁寧に植えられ、真夏にかけて見ごろを迎える予定です。

夏山シーズン本格スタート

市の東西で山開き行事

胆沢平野を見下ろす栗駒国定公園焼石連峰（胆沢区）と市の東端に位置する種山高原（江刺区）で６月１日、１年の山の安全を祈り、山開きが行われました。心配された雨も朝までにはやみ、市の東西で本格的な夏山シーズンの到来を祝いました。

焼石連峰の山開きは、焼石岳ふもとのつぶ沼園地で朝７時から行われ、約70人が出席。相原正明市長は「焼石岳は高山植物の宝庫であり、日帰りで楽しめる山。多くの人に楽しんでもらいたい」とあいさつしました。テープカット後、登山者らは早速山頂目指して歩を進めていました。

種山高原の山開きは、同高原キャンプ場で行われました。関係者による神事終了後は、家族連れの観光客らが思い思いにシートを広げ、アトラクションや名物のジンギスカンなどを楽しんでいました。

濃い緑の中、焼石岳頂上を目指して進む登山者

みずさわ

水辺で遊ぶ時は気を付けて

万が一に備えて水難救助訓練

はしご車を活用した救助訓練

奥州金ケ崎行政組合消防本部（千葉芳範消防長）の水難救助訓練は５月25日、水沢区の姉体町水辺プラザ周辺で行われました。レジャーシーズンを迎え、水難事故に対する初動体制の確立と災害対応などの強化が狙い。降りしきる雨の中、水沢・江刺両消防署員、水沢区消防団員約70人が参加しました。

訓練は、男女３人が乗ったゴムボートが転覆したとの想定で実施。救助隊はボートで水難者を捜索・救助し、ボートが接岸できない条件設定であったことから、はしご車を使って地上へ搬送しました。参加者は真剣な表情で取り組み、緊急時の手順を確認していました。

住民の手作りシンポジウム

江刺・木細工まつり

江刺区米里の木細工集落で５月18日、住民手作りによる地域活性化を目指した木細工まつりが開かれました。木細工小学校体育館を主会場に、むらおこしを主題としたシンポジウム、薬膳料理や山菜料理の試食、集落の歴史や生活に関する展示などが行われました。

同地区は、種山高原のふもとに位置する80戸ほどの集落。木細工むらおこし会（菊池春男会長）を結成して準備を進めてきました。シンポジウムでは、岩手県工業技術センター部長の浪崎安治（なみざきやすじ）さん、宮沢賢治の会会員の佐々木匡（きょう）さんら４人の講師が、地域活性化の手法やヒントを提言していました。

各界の専門家によるシンポジウム

えさし

いさわ

バイオ燃料化目指して実験

胆沢区で多収米の田植え

関係者の期待を集めた田植え作業

５月12日、胆沢区小山字主計谷（ひしやたに）地地内の実証ほ（55.9㌶）で多収米の田植えが行われました。これは県が策定した「いわてバイオエネルギー利活用構想」に基づき、本年度から３カ年で、バイオエタノールの原料や飼料米として期待される多収米の栽培試験を行うものです。

米からのバイオエタノール製造は、胆沢町時代から検討が進められ、採算性の面で原料米の低コスト多収技術の確立が課題となっています。胆沢新エネルギー研究会の佐藤功さんは「生産者はやはり水田で米を作りたい。食べるだけでなく多目的に活用する態勢づくりに期待する」と熱い視線を送っていました。

馬産地の姿を受け継ぐ衣川

日向牧野で馬の放牧

衣川区の日向（ひなた）牧野で５月９日から馬の放牧が始まり、この春に生まれた子馬を含め12頭が緑の牧草地を駆け回っています。

放牧をしているのはＪＡ岩手ふるさと馬産部会（岩清水忠男部会長、会員８人）で、衣川区の繁殖農家を中心に肉用、繁殖用の素馬を生産しています。馬は元来農耕馬として飼われてきたブルトン系が中心。成長すると雄馬で体高（地面からたてがみの下端付近までの高さ）約1.6㍍、体重は1㌧近くになります。馬たちは集団で牧草地を移動しながら栄養、体力を蓄え、11月上旬ごろに各農家に戻ります。

雌馬の検査のため集まった馬たち

ころもがわ